

10月7日に開催された
保護者向け講演会のようす



思春期を親子で

乗り越えるために

関川村子育て支援ネットワーク協議会では、青少年の健全育成のため、村内の小・中学生に統一した「性教育プログラム」を実施することを推進しています。その中の一つに、三年前から実施している「性教育講演会」があります。これは、特に思春期の大事な節目である小学五年生と中学三年生を対象に酒井由美子先生（思春期保健相談士）による講演会を行い、性に対する正しい知識を持ってもらい、自分も他人も大切にできる思いやりのある人を育成することを目的としています。

保護者向けの

講演会を開催

十月七日、酒井由美子先生を講師に招いて「思春期を親子で乗り越えるために〜ここからからだの健康管理について〜」という演題の講演会を村民会館大ホールで開催しました。

これは、思春期の子を持つ保護者向けの講演会で、関川中学校PTA・子育て支援ネットワーク協議会が主催した

的、社会的には子ども

・思春期の性的な成熟は、心理的な離乳・親離れ・自立の重要な契機

思春期は一生の健康づくりの土台となる時期

性教育は「いのちの教育」親の「生き方」が問われている

子どもたちは家庭に「居心地のいい場所」を求めている

参加者の声

中学生保護者（40代女性）

「現代の若者の性の実態などを分かりやすく聞くことができ、うちの子は例外という意識ではいけないと感じました。今日の話を参考に、人間としてどうあるかを親としてしっかり発信していきたいと感じました」

小学生保護者（30代女性）

「性教育とは『いのち』を考える教育という言葉が身にしました。分かりやすい内容でした。まずは、家庭で子どもを大切にすることから始めたいと思います」

むし歯の^{ゼロ}の子に

ピッカピッカ賞

九月十七日に行われた三歳児健診で、むし歯が一本もなかった子どもたちに「ピッカピッカ賞」が贈られました。今回の健診対象者は十一人で、むし歯ゼロの子は六人でした。

今回、受賞した子どもたちは次のとおり。（順不同・敬称略）

天木 輝生（下関）

河内 駿輝（沢）

五十嵐 菜々美（上川口）

平田 拓海（平内新）

須貝 奈々帆（大島）

佐藤 杏珠（松平）



健康せきかわ21

いきいきライフ

「腹腔鏡手術の現状」

県立坂町病院 外科部長 富田 広

手術を受けられる患者さんに「一番心配なことは何ですか?」という質問をします。すると、ほとんどの患者さんが「手術後の傷の痛みが心配」という答えが返ってきます。

患者さんの最大の心配ことである手術後の傷の痛みを、少しでも軽くするために「腹腔鏡手術」という方法が行われています。

これは、お腹に一寸前後の小さい傷を三か所から五か所作り、その傷を通してお腹の中に「腹腔鏡」というカメラを挿入します。お腹の中の様子をテレビ画面に映し出し、さらにお腹の中に電気メスやハサミといった道具を挿入して内臓の手術を行う方法です。日本では平成三・四年ころから腹腔鏡を使って胆嚢を切り

取る方法が行われるようになり、全国の病院で爆発的に普及しました。

しかし、腹腔鏡を使った胃や腸の手術はいろいろな理由で、長らくあまり普及することなく経過していました。それが、最近の手術器械の進歩などにより、平成十七年ころからは、胃や腸の手術も徐々に腹腔鏡を使った小さな傷で行われるようになってきました。また、その手術数も全国的に少しずつ増加しています。

坂町病院でも、平成十九年から多くの患者さんの胃や腸の手術は、腹腔鏡を使って小さな傷で行わせてもらっています。以前行われていた、お腹を大きく切り開いて行う方法に比べると、手術後の傷の痛みは軽く、手術のダメージからの回復もかなり早くなっ

ています。

私は、以前のお腹を大きく切り開いて行う方法で手術を行った患者さんのお腹の傷を見るたびに「申し訳ないことをしました」と、心の中でお詫びしています。

現在の課題は、

- ①必ずしも全員の患者さんが腹腔鏡を使って小さな傷で手術が出来るわけではない
- ②小さいながらも傷ができるので、傷の痛みがまったく無いわけではない

といったことが挙げられます。未来の外科手術は「手術を行っても傷が残らない、手術後に傷が痛くない」というのが理想です。現在、腹腔鏡手術は、まだ課題はたくさんありますが、理想のための第一歩なのではないかと思えます。さらに理想をいえば、すべての病気は、手術を行わずに薬で治すということなのでしょうが、そうなったら外科医の仕事が無くなってしまふのかなあとお思います。

*このコーナーへのお問い合わせは、県立坂町病院へ。

☎六二 三一一

関川村包括支援センター通信 ⑬

地域包括支援センター 役場庁舎内一階 ☎六四 一四七三

人権とは

人権とは、私たちが幸せに生きるための権利で、人種や民族、性別を超えて万人に共通した、一人ひとりに備わった権利です。

人権を認め合い、その違いを尊重し合うことが、家庭、地域、職場、学校などの日常生活の場面において一番基本のルールともいえます。

高齢者の人権

平成十四年に行われた新潟県政世論調査において「高齢者をじゃまもの扱い」「高齢者の意見や行動を尊重しない」「悪徳商法による高齢者の被害が多い」など、高齢者にかかわる人権侵害などの調査結果が出ています。

なかには、一番身近な家庭でも人権の侵害と気づかずに高齢者の人権を奪っていることがあります。

高齢者の権利擁護

・家庭内の問題を高齢者に秘密にしたり、高齢者の意見を聞かずに決めてしまう
・高齢者の年金を、世話しているからと勝手に使う

これらのことは、結果として高齢者からの「楽しみや生きがい」を奪っていることとなります。高齢者にとつて、家族から無視され、家族の話から遠ざけられていくことはとても辛いことです。

これからの地域社会 幸せな生活を営むことは、全ての人の願いであると同時に、私たちの生活そのものでなければなりません。

高齢者が疾病や加齢によって心身の機能が低下しても、尊厳を持って生活を続けていくことができるよう、お互いの人権を認め合い、豊かで暮らしやすい社会をつくらせていきましょう。